

講義への質問

～薬事関係法規・制度～

Q. ダブルワークをしている時 登録販売者として管理者となるには両方の従事時間の合算で大丈夫でしょうか？

⇒複数店舗に勤務する従事者の従事期間の算定については、それぞれの勤務先において、薬事に関する業務に従事した期間を証明してもらい、それを合算し、管理者要件として定められた期間を満たすか否かを確認することになります。

なお、薬機法施行規則において、薬局開設者等に従事証明が義務付けられている期間は、過去5年間となっていますので、従事証明を要請する際には、この期間にご留意頂ください。

また、余談ですが、店舗の管理者となった場合には、管理者に就任した店舗において常勤が求められ、他の店舗に勤務できなくなりますので、ご注意ください。

～フレイル・サルコペニアを知ろう～

Q. フレイル サルコペニア ロコモなど用語がカタカナで高齢者は理解しづらいのではと思います今後分かりやすく変わっていくのでしょうか

⇒ご質問ありがとうございます。

私としては、「フレイル」は新しい言葉としてこれから一般化していくのではと考えております。

最近では少しずつマスコミでも取り上げられております。例えば、最近ではNHK ニュース解説（2023年7月23日「気づいて！“フレイル” 早期発見への新たな目安」）など。フレイル（虚弱）は自分自身での気づきによる改善や他者による介入でより良く自立できる（介護にならない）という大きな意味が含まれています。今のお年寄りには理解しづらいかもしれませんが50代以下の方々には今の「ロコモ」のように10年後くらいまでには普通に用いられていくのではと思います。「フレイル」の理解を深めていただくことが、ご自身健やかに生き、また、日本の医療費の問題解決となるからです。

「サルコペニア」はロコモの意味の一部分ですので、筋肉量減少に特化した専門用語的になるかもしれませんね。これは私のあくまでも見解ですのでよろしくお願いたします。

～食物アレルギー～

Q. OTC 販売の際 食物アレルギーのある人に対して気をつける点

⇒ 医薬品の中にも、特に卵や牛乳の成分を含んでいるものもあるため、消費者への販売の時には気をつけたほうが良いものもあります。例えば、卵由来の成分を含む塩化リゾチーム（リゾチーム塩酸塩）は炎症を抑える酵素として長い間医薬品として使用されてきました。しかし、医療用医薬品としてはもちろん一般用医薬品においても、2016年に厚生労働省より「一般用医薬品の風邪薬および鎮咳去痰薬のうちリゾチーム塩酸塩を含有するものについては、今後新たに承認は行わないこと」が通達され、現在では入手できなくなっていると思います。一方、牛乳由来タンパク質を含むタンニン酸アルブミンを含むものは現在でも市販されています。その場合、例えば下痢や食あたりに使用されている新タントーゼ A やピオフェルミン止瀉薬の添付文書の「使用上の注意」には「牛乳によりアレルギー症状を起こしたことがある人は服用しない」ことが記載されています。

以上、特に食物アレルギーの中でも多い卵や牛乳アレルギーに関することを記載しましたが、その他にも何らかの食物アレルギーを持っている人が薬局に来ることもあると思います。その場合、お客さんが一般用医薬品を服用してアナフィラキシーを起こさないようにするためには、その医薬品の添付文書（特に使用上の注意）をよく読み、アレルギーに関する記述があるかないかを学んでおくことが重要だと思います。

～変化するコロナウイルス感染症への対応と治療薬の理解～

Q. 公費支援後の治療薬の位置付けについて 教えてください

⇒ 新型コロナウイルス感染症の分類が、5月8日に「5類」になり、政府は医療支援の来春の廃止を検討しています。ほとんどの感染者は、風邪処方でするのですが、感染者の約1割の患者は、高額な治療薬を使用することになります。講義でも紹介したようにラゲブリオやパキロビッドなどの抗ウイルス薬は5日間の処方でする1人当たりの薬価が約9万円になります。これまで治療費は公費で支払われてきましたが、薬代も10月以降、まずは1割程度を患者負担にするようになる予定です。来年4月以降は、通常の病気やけがと同様の扱いになり、原則1～3割の負担とする方向になっています。

入院費に関しましても、現在は1カ月の医療費が上限額を超えた場合に支給する「高額療養費制度」を適用した上で、さらに最大2万円が補助されていますが、その補助もなくなることになっていますので、通常の「高額療養費制度」が適応されます。

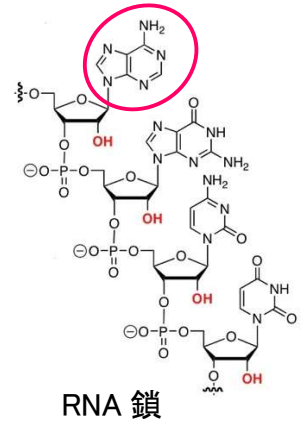
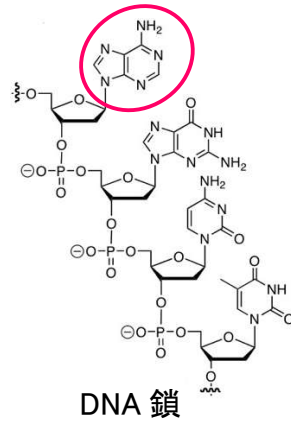
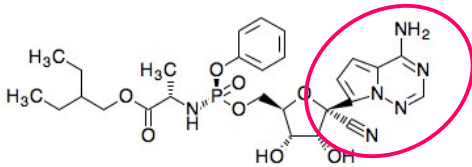
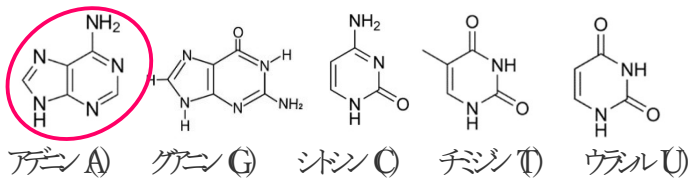
医療費に関しては、検査費用なども有りますので、詳細については病院の相談窓口での確認になります。

Q. 登録販売者の資格を取得する際から、現在まで構造式というものに触れる機会が少なく、理解ができていません。しっかりと勉強したこともありません。

構造式を理解することが出来たら、もっと知識が深まるのではないかと思っているのですが、勉強の仕方も分かりません。何か良い勉強方法、参考書などご存知でしたら教えていただきたいです。

⇒おっしゃるとおり、我々の身体自体が、化学物質によってできていますので、化学構造を知っていると少しは薬の作用などが理解しやすくなります。かといっても、全て化学で説明できるわけではありませんので、全部を理解することはできません。

今回の新型コロナウイルス感染症治療では、治療薬として抗ウイルス薬が使用されます。抗ウイルス薬の場合、DNA や RNA の構造に似た化合物が治療薬として用いられるので、今回の講義では構造式を書きました。 まず、重要なポイントは、



レムデシビル の場合、アデニンと似ている部分があることを知って頂けたらそれで十分です。

RNA 合成に関連している酵素がこの似た構造によって阻害されてウイルスの RNA 鎖が合成できなくなるという薬だということを理解して頂ければ良いです。それ以外の構造は付属品ですので、化合物の溶けやすさや細胞への浸透性、安定性に関連していると考えて頂ければよいです。今回のポイントは、この部分は似ているということが解れば結構です。

ニルマトレルビル、エンシトレルビルは、レムデシビルとは作用機序が異なるので全然 RNA と似ているところはありません。そのことに気が付いて頂ければ結構です。それは、何故かは明らかではないのですが薬としては、新型コロナウイルス増殖を抑える効果がある良い薬です。

～高齢者の医薬品適正使用～

Q. 生理機能の低下や加齢の影響を認めない（認めたくない）高齢者への対応の仕方が知りたいです

⇒ご質問をありがとうございます。

高齢者では生理機能の低下や加齢の影響は個人差が大きいと考えています。このため年齢だけからの判断は難しく、中年者と同様の活動や日常生活機能を保たれている方も多くいらっしゃいます。このような方には健康寿命を延ばすためにこれまでと同様に運動や食事に気を付けられ、定期的に健診を受け健康状態を把握することをお勧めしています。

Q. 高齢者=生理機能が低下しているのではないか、多数の薬剤を服用しているのではないか、という事を常に念頭に置き対応することが大切であるという事を再認識することができました。また、患者様の背景等の聞き取り、患者様との関係性の構築が基本となってくることも改めて感じています。

生理機能の低下（例えば腎機能とか）とは、どこで判断しているのでしょうか。検査値からなののでしょうか。判断材料になるものがあったら教えていただきたいです。

⇒ご質問をありがとうございます。

生理機能低下の有無は臨床検査値から判断します。最も信頼性の高いツールだと考えます。また身体機能の低下であるフレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの評価方法については石川稚佳子先生が詳しく解説されていますのでそちらを参照していただきたいと思います。これらは薬局やドラッグストアでも活用できるツールと考えます。

～おなかの不調に用いる漢方薬～

Q. 消化器内科の門前薬局で 消化器系の漢方 OTC を扱うのは難しいですか

⇒ご質問ありがとうございます。

門前薬局の規模が分かりませんので、考えられる範囲でお答えいたします。

1. 門前薬局が一般用漢方製剤（漢方 OTC）を扱うのは、何ら問題ないと考えます。

調剤併設型のドラッグストアに漢方 OTC が置かれているのと同じ理屈です。

教科書的な文言で申し訳ございませんが、現在はかかりつけ薬局・薬剤師、健康サポート薬局、地域薬局連携薬局など様々な薬局の携帯が提案されています。地域薬局においてもセルフメディケーション、なかでも漢方薬は今後必要不可欠となると思います。その担い手となる薬剤師にとって、それらの知識の習得は大切です。

2. では、消化器内科でよく使われる漢方薬はどのくらいあるのでしょうか。すべてを網羅していませんが、ピックアップしてみました。なお一般用漢方製剤 294 処方を見れば、さらに処方数は増えると思います。

安中散、胃苓湯、温清飲、黄連解毒湯、黄芩湯、黄連湯、乙字湯、葛根湯、加味逍遙散、甘草湯、芍婦膠艾湯、桂枝湯、桂枝加芍薬湯、桂枝加芍薬大黄湯、桂枝人参湯、呉茱萸湯、五苓散、柴苓湯、柴胡桂枝湯、柴胡桂枝乾姜湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、三黄瀉心湯、四逆散、十全大補湯、芍薬甘草湯、四君子湯、小建中湯、小半夏茯苓湯、真武湯、紫雲膏、大建中湯、大柴胡湯、大黄牡丹皮湯、調胃承気湯、当帰芍薬散、当帰建中湯、桃核承気湯、通導散、排膿散及湯、人参湯、人参養栄湯、茯苓飲、茯苓飲合半夏厚朴湯、附子理中湯、防風通聖散、補中益気湯、麻子仁丸、立効散、六君子湯。

さて、消化器疾患に使われる漢方薬に絞ると、ドクターに処方してもらえば漢方薬は直ぐに手に入りますので、門前薬局の漢方 OTC を購入する必要はないと思うのが普通かもしれませんね。クリニックのドクターがどれくらい漢方薬に習熟しているか否かも考慮する必要があると思います。

調剤併設型のドラッグストアならば、ほとんどが門前ではないので、なんら問題はおきないと思います。

3. 門前薬局では、漢方 OTC を扱うときには丁寧な漢方相談が求められるのでしょうかね。お腹の不調は、おもったほど現代薬が有効でない場合が多いので、漢方薬の出番が多いと思います。そんな時に漢方 OTC のメリットがあります。患者さんの訴えをよく聞いて、こまめに対応できる薬剤師がセルフメディケーションの担い手の本領が発揮できるシーンといえます。ここは病院やクリニック、そしてドラッグストアでは難しいですね。そのような観点からみれば、漢方 OTC を扱うのは消化器内科の門前薬局としての立ち位置だと考えます。
4. バイリンガルな薬剤師・登録販売者となってセルフメディケーションに貢献して欲しいと期待してい

ます。漢方薬は薬剤師・登録販売者がその能力を発揮できるところです。自分のお気に入りの漢方OTCを丁寧に相談して患者に最適な処方を選択できると考えます。

Q. 逆流性食道炎に対して使用する漢方薬には、どのようなものがありますか。※

⇒ご質問ありがとうございます。

逆流性食道炎に使われる漢方薬と使い分けを簡単にまとめてみました。

研修会配布資料そのものの内容と、未掲載の処方もあります。

- ・六君子湯（資料収載）
もたれ感、胃に水がたまる感じ、食欲不振、易疲労感
- ・半夏瀉心湯（資料収載）
逆流感、げっぷ、熱感
- ・半夏厚朴湯（資料付録）
のどや胸がつかえる感じや違和感、気分がふさぐ感じがする
- ・小柴胡湯（資料未収載）
胸脇苦満とくに右肋骨下のはり、口が苦い、イライラ感、食欲が低下している
- ・茯苓飲（資料未収載）
吐きけ、上腹部膨満感、胃炎、胸やけ、食欲がない、胃液を吐く
- ・平胃散（資料未収載）
胸苦しい、胃がつかえる、腹痛、腹鳴、食欲不振、酸腐臭のげっぷ